

編 集 後 記

昭和46年度は、学費問題に関し、評議会と学生との間の話合いがつかず、豊橋校舎における45時間無休団交（1月14日～16日）、名古屋校舎における42時間無休団交（3月10日～12日）をはじめ、大衆団交、代表団交が幾度となく繰返され、学生は長期ストに突入、研究館封鎖も1月13日～3月14日まで、実に2か月に亘って行われた。かくて本紀要の発行の遅延したことを、まず陳謝する次第である。

近藤所員は、郷土史研究者としての多面性を発揮し、殆んど注意せられていなかった医界を取り上げられたが、他の地方より率先して発達していた趣が明確に知られる。

千葉所員は、地理学的に、日本を中心とし、アジア各地域の実地調査をも進められているが、この度は天竜川上流の農地の研究を発表せられた。

榊原所員は、新城市史の編さんに多年活躍せられ、各方面に造詣が深いが、今年は、特に専門的に調査せられている、奥三河の放下踊について、詳述せられた。啓発せられるところが少ないと思う。

久曾神所長は、団交出席のため、執筆する時間も無かったが、多年調査していた古文書集について発表した。平安時代以降の貴重な文書が多く、学界に裨益するところも少くないであろう。

夏目所員は、遠江国に関する万葉集を特に深く研究せられ、幾多の歌碑の建設にも尽力せられているが、今度は、万葉集巻20に見える防人生部道麿の歌についての新研究であり、割目に値するものである。

さて本学専任教授として多年活躍せられた堀井令以氏が、懇望もだしがたく、他大学の専任に移られたが、非常勤として出講願っており、今後も所員として御尽力願うことになった。近藤所員は、多年勤務せられた名門時習館高校を定年退職せられ、豊橋市史編纂委員として、その造詣を深めておられ、所員としても御願いすることになっている。(K)

近藤 恒次 所員（豊橋市史編纂委員）
千葉 徳爾 所員（本学文学部教授）
榊原淳一郎 所員（県立豊橋商業高校教諭）
久曾神 昇 所長（本学文学部教授・部長）
夏目 隆文 所員（同朋大学教授）

愛知大学総合郷土研究所紀要 第17輯

昭和47年3月15日 発行

〔非 売 品〕

編輯者代表 久 曾 神 昇

豊橋市町畑町

印刷所 基督教印刷株式会社

豊橋市町畑町

発行所 愛知大学総合郷土研究所